

令和4年度 自己評価表

愛媛県立松山東高等学校通信制課程

学校番号 (20)

教育方針		教育基本法に示された教育精神にのっとり、心身共に健全な人間の育成を期する。		重点目標	1 自主自律の精神に富んだ人間を育成する。 2 絆を深め、支えあう温かい心を育成する。	
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況		次年度の改善方策
I 自学自習 (自主自律の精神に富んだ人間の育成)	生徒の学びを深める報告課題の作成と添削指導の実践	1 生徒が自学自習しやすい設問を心掛け、生徒の学習に対する欲求を満足させる報告課題を作成する。	B	教科書と学習書をよく読めば解ける問題と、思考力・表現力を養う問題とのバランスを考えて作成している教員が多かった。		生徒が興味深く考えられるような問題を出題するなど、生徒の学習意欲を高める工夫をする。
		2 報告課題の誤答に対し、正確な解答と具体的な解説を示す。	B	取組が不十分な報告課題には、具体的な手掛かりを書き添えたり、分かりやすいヒントを示したりして、再提出時の足掛かりとした。		正答を導き出すための、段階を追った解説を記入したり、さらに詳しい解説プリントを作成したりすることにより、自学自習を助けるようにする。
		3 生徒が意欲的に取り組めるよう、添削所見に工夫を凝らす。	B	所見で生徒の視野を広げたり、次のステップを提示したりすることにより、生徒が意欲的に取り組めるように工夫した。		定型的、断続的な所見にならないよう、生徒個人の取組や学習の理解を継続的に認め、励ませるような所見を増やす。
	生徒の学びを充実させる面接指導の実践	1 ICT機器の活用を積極的に行い、生徒に分かりやすい授業を目指す。	B	動画やスライドを活用することにより、効果的な学習展開で分かりやすい授業を行った。		朝礼や授業などで使う機会を増やしたり、研修を行ったりすることにより、更に教員の技術向上させ、生徒に還元できるようにする。
		2 面接指導におけるルールやマナーを徹底し、生徒が安心して学べる学習環境を維持する。	B	授業初めに、面接指導におけるルールやマナーについて確認し、落ち着いた環境で学習できるようにした。		機会を見て、生徒に声掛けを行ったり、コミュニケーションを図ったりすることにより、ふさわしい態度やマナーの定着を図る。
		3 授業力向上のため、年間2科目以上の相互授業参観(全日も含む)を行う。 A: 4科目以上、B: 3科目、C: 2科目、D: 1科目、E: 参観せず	B	通信制の研究授業には全員が参加し、活発な授業研究会を行った。また、全日制の研究授業にも参加し、教科指導力向上に努めた先生もいた。		研究授業以外にも機会を見つけ、教科の枠を超えた授業参観の機会を増やす。
	生徒の学びを支援する学習進度表の作成や受講計画指導の実践	1 学習進度表を個別に作成し、面接指導への出席時間数や報告課題の提出状況を月に1度生徒に知らせる。	A	全員の先生が、学習進度表をきちんと作成することができた。面接指導への出席時間数や報告課題の提出状況を生徒に知らせることができた。		面接指導への出席時間数や報告課題の提出状況を常に確認し、生徒の状況を把握しておく。
		2 年間の受講計画を個別で作成し、卒業までの学習計画を行う。	A	担任全員がクラスの継続受講生徒の受講計画を一緒に考え、確実に作成することができた。		相互点検を注意深く行う。また、担任の意見を参考に、教務課がさらに詳しいマニュアルを作成する。
	適切な勤務時間を遵守するための業務分担の実践	1 パワーポイント等を共有することにより、合理的な教材作りを目指す。	B	教科やホームルームで共有できるスライドを増やし、プリントを連動させて、授業計画や教材作成時間の短縮をすることができた。		ICTを効果的に活用することにより、各教科や年次での教材作りをより充実させる。
		2 校務支援システムを活用し、出席や成績管理を効率的に行い、業務の時間短縮を図る。	B	校務支援システムを効果的に活用し、調査書作成等の時間短縮を行った。入力後すぐに読み合わせをして点検することで、ミスを減らした。		校務支援システムを使うことで、業務改善ができるよう、通信制のシステムに合った、学校独自のマニュアルを作成する。

※ 評価は5段階 (A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	
II 友垣連携（絆を深め、 支えあう温かい心の育成）	生徒相互の絆を深めるための、特別活動等の活性化	1 生徒会活動は、学校の全生徒をもって組織することを意識付け、役員が計画・運営しやすいように支援する。	B	生徒会役員が中心となり、生徒会行事の企画や運営を実施することができた。2年目の生徒会役員が多く、新たな試みを考え、実践しながら活発な活動ができた。	定例会を定着させ、生徒会活動はもちろん、生徒会会報「ふれあい」や生徒会誌「築」、生徒会文集「結」の内容を再検討し、生徒の活動が中心になるよう検討していく。	
		2 特別活動の内容を充実させ運営を工夫し、学校行事の参加者を増やし満足度を高める。	B	特別活動への参加が増えた。特に、半日や一日開催の学校行事への参加が増えた。感想の中には、「楽しかった」「また参加したい」など好意的な意見が多かった。	今年度の感想をもとに、生徒の実態に合った内容を厳選して計画し、特別活動への参加を増やし、活気ある活動になるように努める。	
		3 サークル活動を積極的に奨励し加入率を高めるとともに、大会等を目指し活動内容の充実を図る。	B	全国大会に3種目で4名出場した。定時制高校との交流も深まり、大会に向けて意欲的に取り組めた。サークル加入率は14%であった。	サークル活動の回数は年間6回と少ないが、サークル活動を通して、友垣との交流が深まり、通教生活が充実することを、生徒会会報「ふれあい」や友垣通信で発信する。	
	学校との絆を深める友垣通信等の充実	1 職員全員によるチェック体制を強化し、より分かりやすく工夫された内容の友垣通信を発信する。	A	教職員全員で2回ずつ、必要に応じて3回の確認を行い、内容の誤りをなくすことができた。スクールライフアドバイザーからの一言を追加し、ホームルーム活動の写真を多く掲載した。	全員で作成しているという意識を持ち、生徒に確実に必要事項が伝わり、学校行事に関心を持てる内容になるように努める。	
		2 友垣通信と掲示板・ホームページの内容を関連付け、総合的で魅力的な情報提供に努める。	B	学校行事、生徒会活動やホームルーム活動等、なるべく当日にホームページを更新するようにした。また、学校の掲示板で生徒会報「ふれあい」や行事の案内を行った。	生徒がさらにホームページを活用しやすいように、生徒や保護者の意見を参考に、魅力的な情報提供に努める。	
	「来てよかった学校」づくりの実践	1 通教生活を送るうえで、ふさわしい態度やマナーを身に付けられるように関わる。（授業中、学習室の利用、禁煙）	B	全教職員で、生徒の情報を共有することで、生徒指導（服装や授業中の態度等）の対応を統一できた。教師の指導に対して、素直に聞き入れる生徒が増えた。	生徒に対して、様々な場面でこちらから言葉掛けをするようにして、教師と生徒のコミュニケーションを図りながら、信頼関係を築いていく。	
		2 立ち番や校内外の巡視によって安心・安全な環境づくりに努める。	A	校内外の巡視をすることで、生徒の様子を把握することができ、安心して活動できる環境づくりができた。	年度によって生徒が変わるので、校内外での生徒の様子をさらに把握し、安心して学校生活を送ることができるように努める。	
		3 進路に関するホームルーム活動の出席率を全校生徒の30%以上にする。 A:30%以上、B:25%～、C:20%～、D:15%～、E:15%未満	A	進路に関するホームルーム活動は、前期に2回、後期に1回行っており、3回の参加人数の合計は、全校生徒521名中229名、44%であった。	毎回、学習段階（年次）にあわせた3つの講座を開設しているが、生徒のニーズにあわせてさらに内容の充実を図る。	
		4 心身ともに健康な体を自己管理し、健康への意識高揚を図るために、入学生の健康診断受診率を80%以上とする。 A:80%以上、B:70%～、C:60%～、D:50%～、E:50%未満	A	入学生の健康診断受診率は、93.7%であった。昨年度より、受診率が上がり、生徒の意識の高揚を感じた。また、二次検査を必要とする生徒には、適時呼びかけをし、再検査をすることができた。	引き続き、入学生へ健康診断の必要性を説明し、健康維持への意識高揚を図り、全員が受診するように呼びかけたい。	
		5 スクールライフアドバイザーを活用し、教育相談の充実等を図り、相談しやすい環境作りに努める。	B	利用する生徒が次第に増え、中には複数回利用する生徒も出てきた。相談先の選択肢が増えたことで、生徒が相談しやすくなっただけでなく、教員側もより多角的に生徒を把握できるようになった。	SLA相談について、より広く周知するため、掲示、配布物等の工夫が必要である。担任とも連携して、生徒が気軽に利用できるようにしていきたい。	
	※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。					